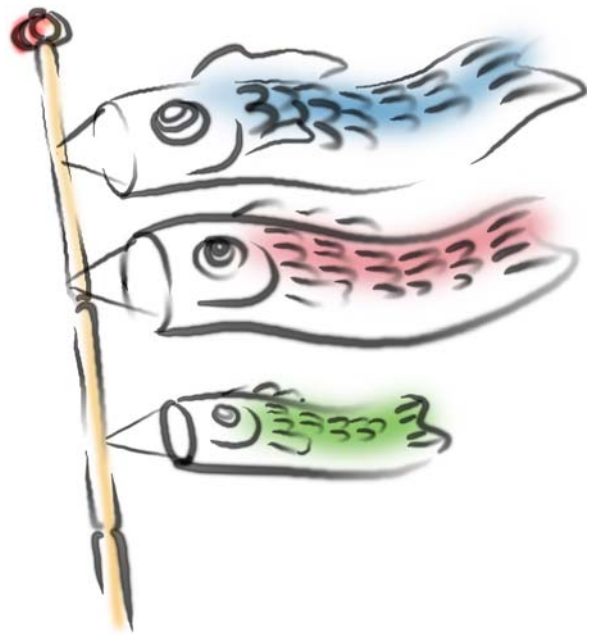


岩美病院

だ よ い

2010 4・5 月号

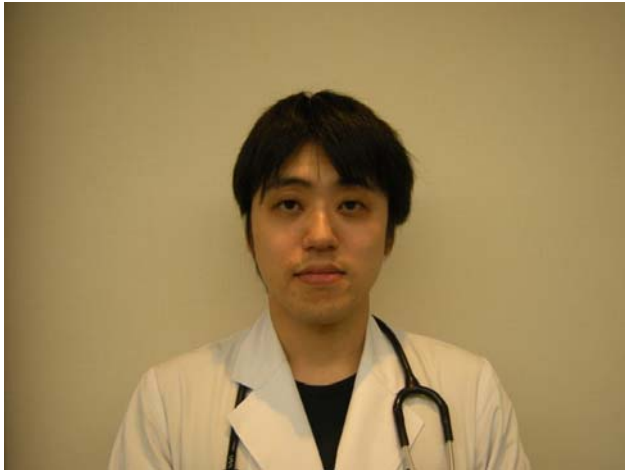


特集

- 岩美病院新職員紹介
- 院内研究発表



岩美病院新職員紹介



きたたに しん
北谷 新さん

職 種：内科医師

趣味・特技：スポーツ観戦^{かんせん}

自己紹介：出身は鳥取市で、栃木県
の自治医科大学^{じちいかだいがく}を卒業して5年目とな
ります。最初の初期臨床研修^{しょきりんしやうけんしやう}2年間
を鳥取県立厚生病院^{こうせいびやういん}で行いました。そ
の後、智頭病院で2年間内科として勤

務してきました。家族は妻と1歳の子供1人の3人です。

患者様に信頼していただけるよう、日々の診察に一生懸命取り組んでまいり
ます。今後ともよろしくお願いいたします。



たにかど まり
谷角 真理さん

職 種：看護師

趣味・特技：映画鑑賞

自己紹介：地元近くの岩美病院で働
くことになりました。地域医療のお役
に立つことができるよう頑張りたいと
思います。よろしく申し上げます。



ふくむら かな
福村 佳奈さん

職 種：准看護師

趣味・特技：音楽鑑賞、スポーツ

自己紹介：生まれも育ちも岩美で、岩美町が大好きです。患者様に信頼され、信用されるような看護師になりたいです。よろしくお願いいたします。



しもだ よしこ
下田 喜子さん

職 種：歯科衛生士

趣味・特技：ウォーキング

自己紹介：はじめまして。4月より歯科・歯科口腔外科で勤務することになりました下田喜子です。

以前は兵庫県川西市の小児歯科専門
病院で6年間勤務していました。

での仕事はまだまだ^{いた}至らないことも多くあると思いますが、皆様の笑顔の手助けができますよう一生懸命頑張りますので、どうぞ宜しくお願い致します。



新職員とともに
地域医療のためがんばります!!

第2回岩美病院研究発表会開催

去る2月25日、午後5時40分より岩美病院大会議室にて「第2回岩美病院研究発表会」が開催されました。

この発表会は昨年度より、各部署の連携を図り、医療の質を向上させることを目的に行われています。

今回は5題の発表がありましたのでご紹介します。

* 『作業と環境』

部署：薬局 発表者：高岡 清 薬剤師

調剤の待ち時間を短縮することはサービス上では欠かせないことです。

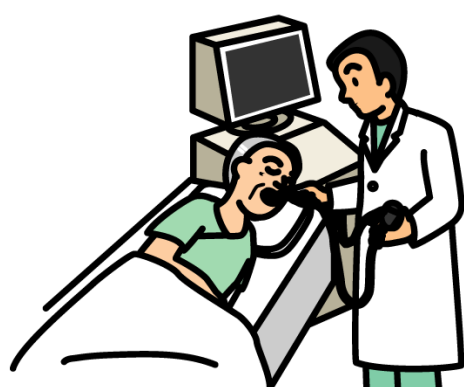
ところが、急ぎバタついた作業環境では確認などの単純な作業が不十分になりやすく、正しい調剤のさまたげになることが実験で明らかにされました。

我々は、急いで作業することだけが時間短縮への解答とは考えないで、他のより安全なやり方を作り出す必要性を感じています。



* 『経鼻内視鏡を利用したイレウスチューブ挿入』

部署：医局 発表者：加藤 耕平 医師



腸閉塞に対する治療では、鼻からイレウスチューブ(腸の中に溜まった腸液やガスを吸い取るために使う長いチューブ)を入れなければならない場合があります。

しかし、イレウスチューブの挿入は時間がかかることも多く、結果患者さんへの負担が大きくなることが問題でした。内視鏡(胃カメラ)を使い時間の短縮を図る方法もありますが、鼻からチューブ、口から内視鏡を入れる必要から患者さんの苦痛はむしろ強くなるのが難点でした。

今回、当院で採用されている経鼻(鼻から入れる)内視鏡を利用しイレウスチューブ挿入を行った例を紹介しました。時間の短縮を行いつつ患者さんへの苦痛も軽減される方法として今後積極的に薦められる方法と考えられました。

* 『^{みち}未知なる手術室への誘い』

部署：外科 発表者：山根 由紀子 看護師、 田中 典子 庶務係

一般的に《閉鎖的》《怖い》《暗い》《冷たい》というマイナスイメージの強い手術室ですが、担当看護師は手術室でいったいどのように働いているのかについて発表がありました。

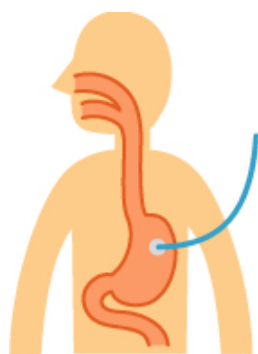
内容ですが、平成16年5月（新病院開設時）から平成21年12月までの手術件数（年平均100件前後）、麻酔の種類（^{ようつい}腰椎麻酔が約半分を占めた）、手術所要時間（8割は2時間以内だったが、5時間を越える症例もあった）、年齢別手術件数（70代以上が多かった）などの統計についての話がありました。

また、実際の手術における最初（準備）から最後（片付け）までの流れについて、スライドを使いながら詳しい説明がありました。



* 『^{ねんどちようせいざい}粘度調整剤による^{はんこけいかほう}半固形化法』

部署：3F 病棟 発表者：齊藤 千里 看護師 田中 英子 看護師
鍛治川厚子 看護師 湊 千歳 看護師
大西 陽子 管理栄養士



『胃ろう』による^{けいちよう}経腸栄養（口からの食事ができない人のために、直接胃より栄養補給する方法）を行っている患者さんは年々増加しています。

経腸栄養は、基本的に液体で用いますが、患者さんによっては①胃や食道からの逆流を予防するため、②『胃ろう』^し刺入部（栄養を入れるところ）からの漏れを予防するため、③下痢などの合併症を予防するためなどの目的で、栄養剤を「半固形化」して用いる症例が増えています。

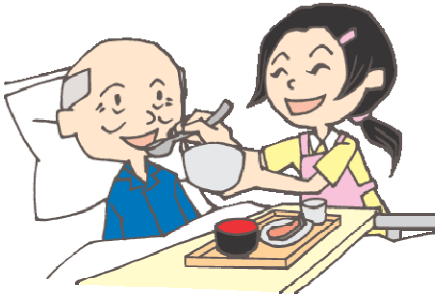
このたび新しい粘度調整剤（液体を半固形化するためのもの）を使用したときの症例について発表がありました。

今まで「半固形化」の準備のために、たいへんな時間と労力がかかっていましたが、新しい粘度調整剤を使用することにより短時間で準備できるようになりました。

その結果、患者さんに接する時間が増え、良い看護へつなげることができるようになりました。

* 『^{えんげ}嚥下^{かいにゆうしょうれい}リハビリ^{ぶんせき}介入症例の分析』

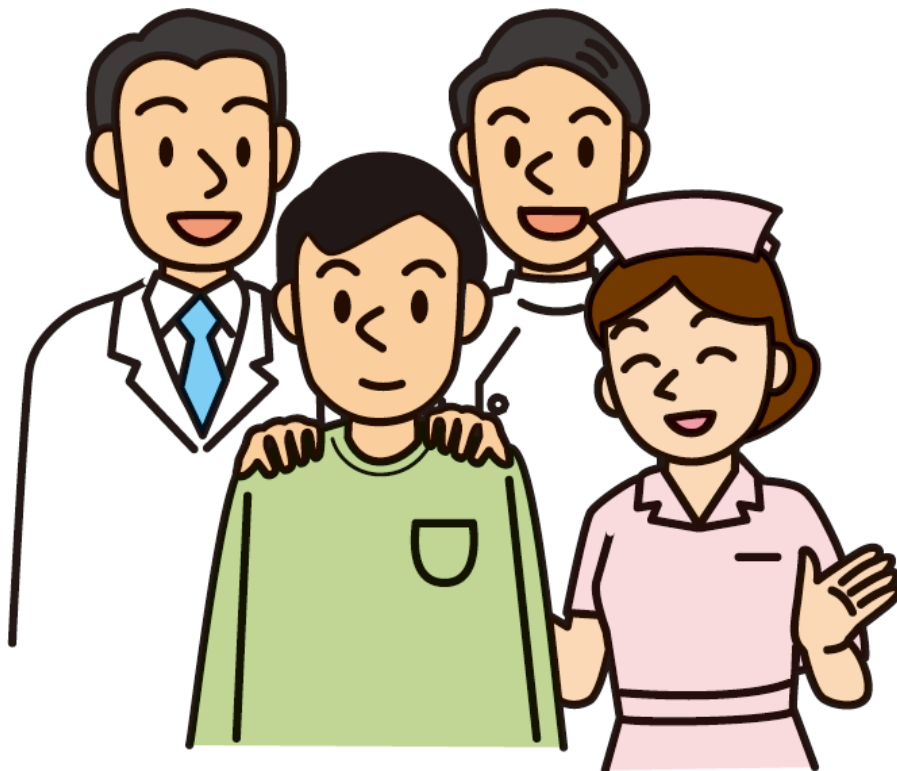
部署：嚥下チーム 発表者：小林 香織 作業療法士



当院嚥下チームは、「医師、歯科医師、看護師、作業療法士、管理栄養師、歯科衛生士」によって構成され、嚥下障害（食事ができない、または難しい）をもった患者さんに対して、安全に食事ができるよう取り組んでいます。

今回、平成19年以降48名の患者さんに関わってきた中で、一概にはいえませんが《座位が可能である（座ることができる）》《意欲がある》《^{けいぶこうしゆく}頸部拘縮がない（首がうごく）》という患者さんは、比較的食事ができるようになる可能性が高い傾向がみられました。

このたびの5例の研究発表は職員にとって、知識の研鑽や^{けんさん}意欲の向上へと繋がり、非常に有意義な時間となりました。



編)集)後)記)

4月になり、新しい年度が始まりました。

春は別れの季節でもあり、出会いの季節でもあります。岩美病院でも前項で紹介しましたが、新しい仲間を迎えました。

日々変化していく医療の現場で患者様やご家族のお役に立てるよう、気持ちも新たに職員全員が一丸となりがんばっていきます。今年度も1年、どうぞよろしくお願いいたします。

(津村・近藤・加藤紀)

